

180 稲の始まり

御殿でい言る、村ぬ家ぬ大んかい、うまぬ田ぬ、あてい、うぬ田たんかい水浴みじあびすんでいやーに、くぬ鳥ぬ稲種持つち来やーに、沖縄ぬ稲や、ひるぎたんでいる話聞ちゃん。

また、久高んかいぬくとうや、くまからーあまー東^{あがり}方、知念玉城や、田まんどーくとう、あまなじまた、稲種や、ひるがたんでいる話聞ちよーん。

受水^{うきんじゆ}走水ぬ、田んぼぐわーやよー、坪数^{ちぶすう}やありやしが、う米や毎年満作んでいぬ話聞ちよーいびーん。

御殿という、村の家の元家に、その田んぼが、あつて、その田んぼに水浴びしようと、鳥が稲の種を持つて来たので、沖縄の稲は、広がったという話を聞いています。

また、久高島のことは、ここからは向こうは東方にあり、知念玉城は、田圃が多いから、向こうに行つて、稲の種は、広がったという話を聞いています。

受水走水の、田圃はね、坪数は少ないが、お米は毎年豊作だと言う話を聞いています。